

令和6年度
三浦市青少年派遣団
活動報告書
三浦市青少年姉妹都市国際交流事業



三浦市青少年姉妹都市国際交流実行委員会

三浦市教育委員会

目的

オーストラリア及びウォーナンブル市の教育・文化・生活習慣等の理解
青少年の交流
国際的視野を持つ青少年の育成
次代の市民、地域の交流の促進

目次

この報告書はウォーナンブル市との”架け橋”となる三浦市青少年派遣団の活動記録です

国際姉妹都市ウォーナンブル市	1
派遣団	2
引率者	3
活動日誌	5～18
報告活動	19
研究課題	20～31

派遣団

引率者 2名
派遣生 8名
(高校生3名 中学生5名)

派遣先

オーストラリア
ヴィクトリア州
ウォーナンブル市

派遣期間

令和6年
8月8日(木)～
8月21日(水)

活動概要

事前研修

6月26日(水)
事務局による概要説明
7月3日(水)
事務局による研究課題指導
7月10日(水)
ALTによる英語指導
7月17日(水)
ALTによる英語指導
7月24日(水)
事務局による渡航指導

交流活動

派遣事業
8月8日(木)～21日(水)
ウォーナンブル市内の家庭
に滞在し、ブラウワーカレッジ
等の学校生活、姉妹都市30周年
式典を体験や、メルボルン市
視察

報告活動

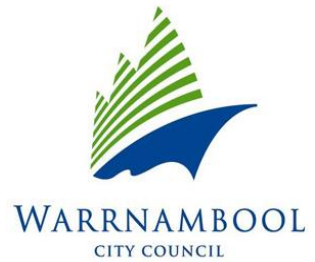
8月2日(金)
壮行会において市長、実行委員
会及び保護者へ出発を報告
8月28日(水)
市長、実行委員会及び保護者へ
渡航中の活動概要を報告
8月29日(木)
三浦ロータリークラブへ渡航
中の活動概要を報告
11月17日(日)
三浦市民まつりにて活動
内容を市民へ報告

国際姉妹都市オーストラリア・ウォーナンブール市

ウォーナンブール市はオーストラリアの南東部に位置する穏やかな気候と自然豊かな台地に恵まれた美しい都市です。

メルボルンへ約 300km 続く切り立った海岸線と奇岩で知られるグレートオーシャンロードや、野生のクジラを観察できるホエールウォッチングには多くの観光客が訪れます。

また、広大な牧草地帯に続く放牧風景はオーストラリアの大自然をそのまま感じることが出来ます。



市内には、古き時代のハーバービレッジを再現したフラッグスタッフヒルや、野生のコアラやカンガルーなどが生息する自然公園のタワーヒルなど人と自然が調和し共生している街です。

昭和 56 年（1981 年）4 月、ウォーナンブール市長をはじめとする一行が、交流を目的として本市を訪れたのが始まりでした。

その後、昭和 58 年（1983 年）、ウォーナンブール市議会議員が三浦市を訪れたことをきっかけに、姉妹都市提携を前提とした交流が始まりました。市民訪問団による相互訪問を含む約 10 年間の準備の後、平成 4 年（1992 年）7 月 6 日姉妹都市の盟約を結ぶに至りました。

締結後は、青少年の相互派遣や留学生の受入れ等の教育の交流、市民訪問団による相互交流や行政間交流、有志による芸術交流も行われています。

平成 24 年（2012 年）から平成 27 年（2015 年）にかけて姉妹都市提携 20 周年を記念し様々な交流が行われました。5 月に三浦市国際交流協会訪問団が、8 月に三浦市長がウォーナンブール市を訪れ、記念行事等に出席しました。

平成 25 年（2013 年）10 月、ウォーナンブール市長を始めとする 11 名の訪問団を三浦市へお招きし、様々な姉妹都市提携 20 周年記念事業を実施しました。

また、平成 27 年（2015 年）4 月、ウォーナンブール市民訪問団が三浦市に滞在し、ホームステイや日本文化体験を通して、これまで育んできた両市の絆をさらに深めることができました。

そして、平成 30 年（2018 年）5 月、三浦市国際交流協会訪問団が、25 周年を記念しウォーナンブール市を訪れました。令和 4 年（2022 年）10 月、姉妹都市提携 30 周年を記念し、新型コロナウイルスの感染対策を踏まえオンラインによる式典が実施されました。

三浦市青少年派遣団の活動は、令和 2 年度（2020 年）以降は、新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延より休止としておりましたが、令和 6 年度（2024 年）より派遣事業が再開しました。

派遣団

<紹介>

令和6年度（2024年度）三浦市青少年派遣団ですが、引率者は上宮田小学校教諭の高橋 月菜先生、三浦市教育部青少年教育課の柳田主査の2名
派遣生は高校生が、3年生の長島 瑠美さん、1年生の楠 和果奈さん、清水 花恋さんの3名
中学生は3年生の星 愛姫さん、2年生の稲邑 優俐子さん、上郷 唯花さん、嘉山 煌星さん、松井 陽真莉さんの5名、計8名

<活動>

6月の試験を経て選抜された派遣生は、6月末より事前研修を開始し、派遣目的等の理解や研究課題への取組のほか、ALT（三浦市国際交流推進英語非常勤講師）による語学研修に参加しました。そして8月2日の壮行会において活動予定を報告し、8月8日にオーストラリアへ向けて出発しました。



派遣生の研究課題のテーマは、日常的なもののから教育にかかわるものまで幅広く、それぞれ自分らしい内容を選択しております。

異文化生活

食文化について

海外における日本文化の浸透度

美容について

稲邑 優俐子

楠 和果奈

清水 花恋

市民生活

お菓子について

景観について

オーストラリアの生活の仕方について

上郷 唯花

星 愛姫

松井 陽真莉

学校生活

校則について

学生について

嘉山 煌星

長島 瑠美

引率者

三浦市立上宮田小学校 教諭 高橋 月菜

2024 年度三浦市青少年派遣団の引率として、子どもたちとともに現地で貴重な経験をさせていただきました。

派遣生同士が、初めて顔を合わせたのは、出発日の約 1 か月前。事前の研修で集まった初日は、不安でいっぱいな様子でしたが、何度か一緒に研修を受けたり、準備をしたりしていくうちに、たくさん会話が生まれ、明るく楽しく活動できる場になりました。年齢も学校も様々な中高生が、あっという間に自分たちの力で良い関係を築く姿に、感心しました。

派遣生のコミュニケーション力は、現地でも発揮され、慣れない環境の中でも、「何とかして自分の思いを伝えよう！」と積極的に活動する様子が印象的でした。特に、現地の学校で中高生が受ける「Japanese（日本語）」の授業に参加したときには、英語と日本語が混ざった問題文や選択肢があるクイズに挑戦し、お互いに慣れない英語や日本語で伝え合う難しさ・もどかしさを楽しみながら笑顔で活動していました。

オーストラリアについて数日は、スマホの翻訳機能を使いながらコミュニケーションをとることが多かった派遣生でしたが、現地で過ごすうちに、だんだんと自分の力で伝える姿が増えました。

きっと派遣生たちは、「完璧な英語がわからなくても、知っている言葉やジェスチャーで、自分の思いは伝わるんだ！」と自信がついたのではないかと思います。この経験は、実際にオーストラリアへ行ったからこそできた貴重なものです。

今回の派遣で得たたくさんの発見や出会いを活かして、これからも前向きに楽しく、色々なことに挑戦して欲しいと思います。

三浦市教育部青少年教育課 主査 柳田 泉

私たち三浦市青少年派遣団は、現地担当者であるブラウワーカレッジのブルック先生をはじめとするウォーナンブール市の皆様に暖かく迎えていただき、大きな問題も起きることなく充実した 14 日間を過ごすことが出来ました。

ウォーナンブール市へ向かうにあたり、予定していた列車に乗り遅れてしまうなど時間がずれ、それぞれのホストファミリーと会うまでは疲労と不安と緊張の表情でしたが、ホストファミリーに会うと期待と安堵の表情を見せていました。日が経つにつれ、ホストファミリーと打ち解けあい、しっかりとしたコミュニケーションが取れていました。派遣生は、毎日明るい笑顔をみせてくれて、元気に 14 日間活動してくれました。

引率の高橋先生には教師ならではの観察力で派遣生を見守っていただき、生徒の健康面、精神面のサポートをしていただきました。

今回の派遣時にはウォーナンブール市と三浦市の姉妹都市交流 30 周年式典が行われ、派遣団も式典に参加させていただき、派遣生は記憶に残る体験をしたのではないかと思います。

派遣活動の中で派遣生は、何かわからない事など問題が起きた時には、自分で情報を集めて考え、物事を判断し進めていました。

派遣活動を終えて派遣生は大人の顔つきになったのではと思いました。

今後この派遣活動の体験が、派遣生の今後の人生において心の支えになる一助になってくれればと願っております。

8/ 8 成田空港 →→
 8/ 9 →メルボルン→サザンクロス（列車・バス）
 →ウォーナンブール
 8/10 ホストファミリーと過ごす
 8/11 ホストファミリーと過ごす
 8/12 ブラウアーカレッジにて授業体験
 8/13 ブラウアーカレッジにて授業体験
 姉妹都市交流30周年式典に参加
 8/14 ブラウアーカレッジ→ウォーナンブール小学校
 8/15 ブラウアーカレッジにてミュージカル公演鑑賞
 8/16 ブラウアーカレッジにて授業体験
 8/17 ホストファミリーと過ごす
 8/18 ホストファミリーと過ごす 送別会
 8/19 ウォーナンブール（列車・電車）→サザンクロス
 →メルボルン
 8/20 市内視察
 8/21 メルボルン→成田（車）→三浦

研修会



壮行会



成田空港出発ロビー



活動日誌

DAY1 8月8日(木)

報告者 長島 瑠美

活動内容 移動

場所 三浦市→成田空港(派遣に向けて、出発に向けて)



大きな荷物と不安を背負って、とうとうこの日がやってきました。

親と別れを告げ、飛行機とオーストラリアでの冒険のスタートです。

飛行機からの景色はとてもきれいで、夜の暗い機内は、修学旅行のあの夜を思い出させました。心躍らせながら、音楽や映画を楽しみながら、首や体を痛めつつ眠り、空港の丸い枕の大切さに気付きながら、飛行機の旅をとても楽しめました。

明日からはオーストラリア生活の幕開けです。たくさんの事にチャレンジして、友達を作って、楽しんで、成長していきたいと思っています。

成田空港出発ロビー



DAY2 8月9日(金)

報告者 長島 瑠美

活動内容 移動 オーストラリア到着とホストファミリーと対面

場所 メルボルン市→電車→バス→ウォーナンブール市

メルボルン市街



10 時間ほどの長い飛行機の旅を終え、オーストラリアに到着しました。

ですが、これからメルボルンからウォーナンブールに電車で移動するという時に、荷物が重く、何人かが電車に乗り遅れてしまいました。

しかし、次に出る電車に丁寧に案内してくれたあの駅員さんや、私たちのために席を譲ってくれたあの方、気にかけてくださった車掌さんなど、たくさんの人に助けられながら無事、ホストファミリーに会うことが出来ました。感謝の印に折り鶴を渡し、喜んでもらえたのも嬉しい思い出です。少し不安な時もありましたが、素晴らしい出会いに今は感謝しています。



サザンクロス駅



DAY3 8月10日(土)

報告者 楠 和果奈

活動内容 ホームステイ先の家族と過ごす

場所 家、メルボルン市内

今日は AFL と呼ばれるフットボールを見るためにメルボルンに行きました。見たことのない電車のようなバスのような乗り物が路上を走っていたり、映画で見た形の二段アイスが売っていたり、街並みにはウォーナブルとはまた違った魅力があり、特に夜景が好きでした。ホストファミリーの親戚の方も集まってフットボール観戦をしました。激しい試合の末、自分たちの応援したチームが勝利を収めた時には、みんなから歓声が上がりました。スポーツ観戦の一体感は素敵だなと改めて思いました。今日はホテルに泊まって明日もメルボルンを観光します。また一つオーストラリアを知ることができるのが今から楽しみです。



DAY4 8月11日(日)

報告者 上郷 唯花

活動内容 ホームステイ先の家族と過ごす

場所 家、グレードオーシャン・ロード、牧場 牧場

今日は、「グレード・オーシャン・ロード」の「十二使徒」を見に行きました！7 個の大きな岩があって、すごく綺麗な海でした。その近くのビーチでピクニックをしたら、カモメがたくさん寄ってきてびっくりしました。

次に、ホストマザーのお友達の牧場に行きました。そこでは、たくさんの経験をさせて貰いました。一番印象に残っているのは、生まれて1日とかの子牛に会ったり、餌をあげたりしたことです。日本では経験できないようなことがたくさん経験できてとても楽しかったです！



グレードオーシャンロード



DAY5 8月12日(月)

報告者 楠 和果奈

活動内容 授業体験

場所 ブラウワーカレッジ



今日はウォーナンブールに着いてから初めての登校でした。そこには沢山の驚きと発見が溢れていました。まず学校のデザインと広さが私たちの学校とは大きく異なっています。日本の学校より壁に用いられる色数が多く、よりポップな印象を受けました。もちろん見た目だけでなく文化や授業、さらには時間割にまで大きな違いがいくつも見られました。英語の授業は難しいのでついていくことはできませんでしたが、木工の授業には参加することができました。木を削ってネジを打ってキーフックを作りました。最後の熱した道具で模様をつける工程では生徒それぞれの個性が表現され世界で一つの作品を作り上げることができました。素晴らしい旅の思い出になりました。

木工教室



DAY6 8月13日(火)

報告者 松井 陽真莉

活動内容 授業体験 式典参加

場所 ブラウワーカレッジ学校体験

ブラウワーカレッジ

ブラウワーカレッジ2日目の学校は昨日よりは緊張せずに私のホスト student の友達が話しかけてくれて対応は大変だったけど沢山コミュニケーションが取れたと思います。

休み時間ホスト student と写真を取ろうとしたらみんな入ってきて海外のノリを感じました笑

5、6時間目は、日本人みんなでウッドワークの授業を受けました。それぞれの個性がでて楽しかったです。

18:00 から三浦の市長とウォーナンプールの市長との挨拶みたいなので、party を行い、みんなと写真を撮ったりしました。



姉妹都市30年記念式典



DAY7 8月14日(水)

報告者 嘉山 煌星

活動内容 授業体験

場所 ウォーナンブール小学校

今日はブラウワーカレッジでの授業はなくて、ウォーナンブール市内の小学校へ行きました。自分たちが授業に参加させてもらったのは、小学校低学年から高学年までの年齢層が広い範囲での日本語の授業に参加しました。みんなとても熱心に日本語の授業に取り組んでいて、日本語が上手だなと感じました。

ウォーナンブール小学校



DAY8 8月15日(木)

報告者 嘉山 煌星

活動内容 授業体験

場所 ブラウワーカレッジ

今日の授業は、ブラウワーカレッジで「マンマ・ミーヤ」という演劇を見せられました。演劇を演じた学生は、歌も演技もとても上手で、本当に驚いたし、とても楽しい劇でした。演劇を見て思った事は、演者が様々なシーンを演じる中で、集団で動く場面や動いてはいけないところの演技の切り替えは、本当にすごいと感じました。

ブラウワーカレッジ内アンダーソンシアターにて



DAY9 8月16日(金)

報告者 清水 花恋

活動内容 授業体験

場所 ブラウワーカレッジ学校体験

今日は私のホストストゥーデントが体調不良で学校をお休みする事になり、ダンに1人で学校へ送ってもらいました。

今日の授業は、日本でいう中学2年生にあたるブラウワーカレッジの学生と、日本語(Japanese)の授業を受けました。教壇の後ろには、大きなスクリーンがあり、パソコンのソフトの映像が映し出され、正解を出したチームがポイントもらえるゲームのような授業形式でした。私のいたグループは5位で、上位には食い込めなかったけど、とても楽しい授業でした。

帰りはホストマザーがお迎えに来て、そのままスーパーに買い物に行きました。

家までの帰り道で、虹が見えたり、夜ご飯は好きなミートソーススパゲッティが食べられるなど、気分が上がった1日でした。



ブラウワーカレッジ



DAY10 8月17日(土)

報告者 清水 花恋

活動内容 ホストファミリーとの自由時間

場所 ウォーナンブール市内、動物園、映画館

学校がお休みの今日は、スチューデントファミリーのダンとジャックと一緒に動物園へ連れて行ってもらいました。日本では見た事のない動物に出会えたり、鹿に餌をあげたり、ワラビーと触れるなど、色々な動物と触れあう事が出来た事がとても嬉しかったです。外でお昼ご飯を食べていたら、まるで私たちがオウム使いみたいになったようにオウムが一斉によって来て、とても大変でした。

動物園からの帰り道の景色は、大きな川か海が見えて、とても綺麗でした。

また岩がピンク色で驚きました。

その日の夜は、スチューデントファミリーで映画館に行きました。「エイリアン」という映画を見ましたが、オーストラリアということで日本語字幕もなかったのですが、とても楽しめました。どきどきハラハラが止まらない映画でした。



映画館



DAY11 8月18日(日)

報告者 稲邑 優侑子

活動内容 ホストファミリーとの自由時間

場所 ウォーナンブール市

自然公園

今日はホストファミリーとの最後の休日。自然公園に連れて行ってもらってコアラやカンガルーを見ました。オーストラリアっぽいことができたなって思いました。

そのあとはお別れ会をして1人2、3分のスピーチをしました。英語でスピーチするのは緊張したカタコトになっちゃったけど、ホストファミリーたちと感謝を伝えられてよかったです。

最後の夜は家族と一緒に話したりゲームをしたりして過ごしました。



お別れ会



DAY12 8月19日(月)

報告者 稲邑 優侑子

活動内容 バス、電車にてウォーナンブール市から
メルボルン市へ移動、メルボルン市内視察

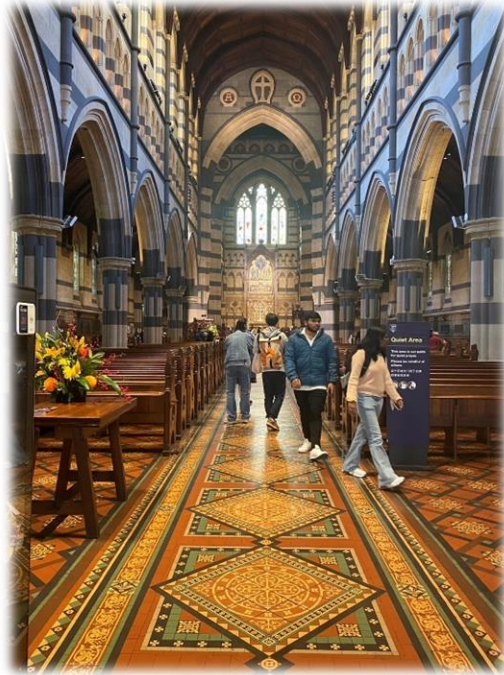
場所 ウォーナンブール市→メルボルン市へ

セントパトリック大聖堂

今日はメルボルンへ向かう日です。メルボルンへ向かう列車の中でみんなと喋ったり、お菓子を食べたりして過ごしました。

着いた後は国立ビクトリア美術館やセントパトリック大聖堂に行きました。大聖堂は日本では見られないもので感動しました。

その日の夜に夜ご飯をホテルで食べました。ホームステイがどうだったかを話したり世間話をしたりして過ごしました。楽しい時間を過ごしました。



国立ビクトリア美術館



DAY13 8月20日(火)

報告者 星 愛姫

活動内容 メルボルン市内視察

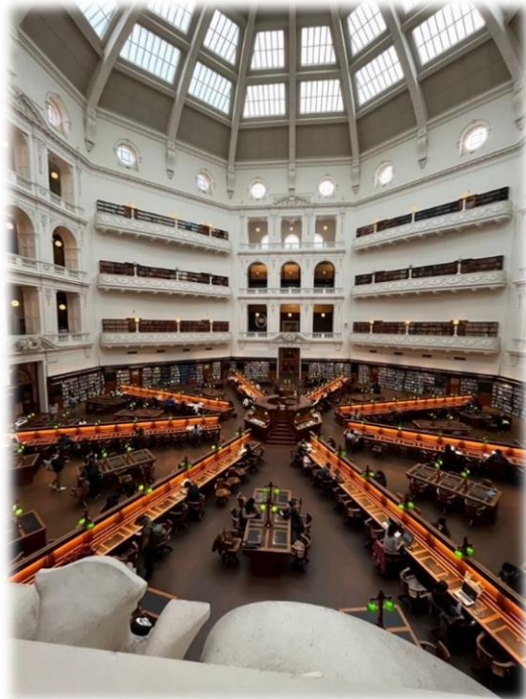
場所 メルボルン市内

今日是一日中メルボルン市内を観光しました。メルボルン大学を見たりビクトリア州立図書館に言って見学をしたりしました。

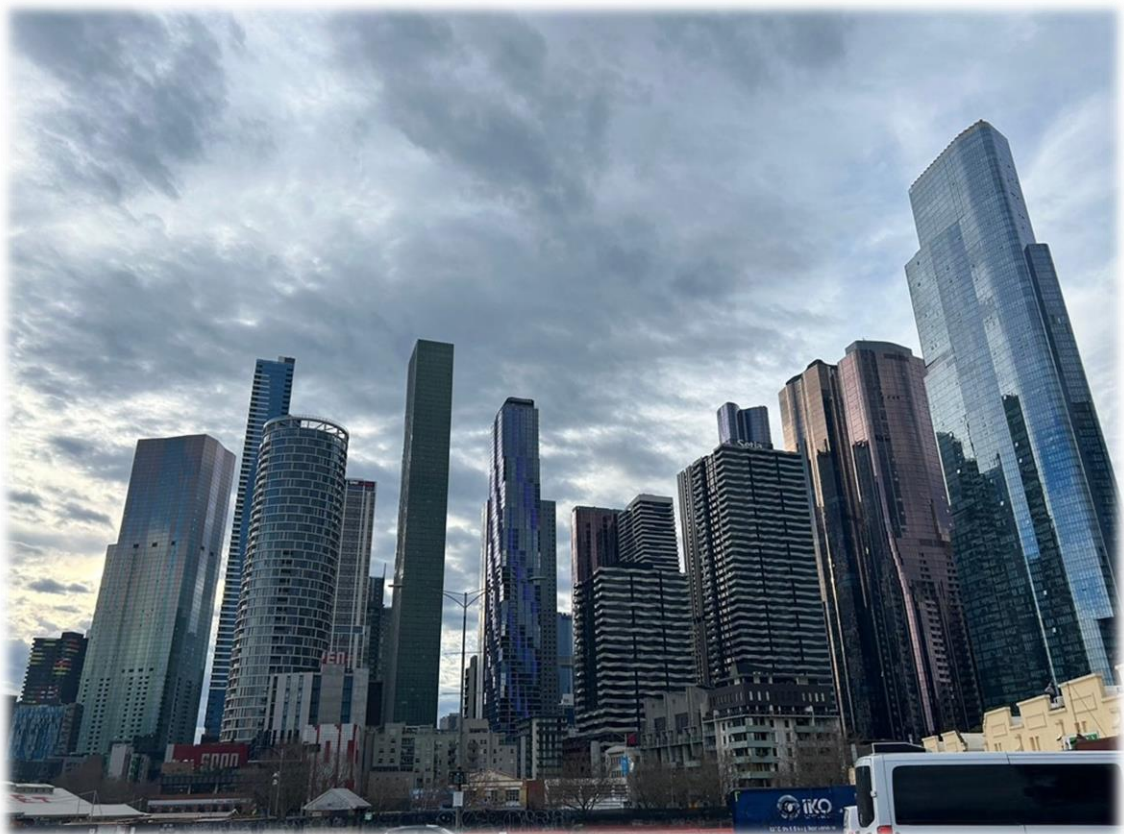
他には、一日の半分ぐらいが自由行動でお土産や食事をするときなどみんなでの仲がより深まった一日だと思いました。

雨という中行った観光だったけどお土産も買えて様々な場所を見学できて、オーストラリア観光最後にしてとてもいい思い出になりました。

ビクトリア州立図書館



メルボルン市 ビル群



DAY14 8月21日(水)

報告者 星 愛姫

活動内容 帰国(オーストラリアからの出発)

場所 メルボルン市→メルボルン空港→成田空港

今日は帰国しました。朝五時にメルボルン市内を出発するのは少し眠気に耐えながらだったけどみんな頑張っていました。

メルボルン空港に着いてからは離陸までの自由時間を各々楽しんで飛行機に乗りました。

日本に着いた時はみんな飛行機で疲れ切っていたけど、日本の景色や自分たちの家族に懐かしさを感じていたと思います。



メルボルン空港出発ロビー



報告活動

壮行会 8月2日(金)

三浦市役所にて

市長、市議会都市民生委員長、教育長、青少年姉妹都市国際交流実行委員会、派遣生の保護者へ、出発に際して活動予定などを報告し、激励のお言葉をいただきました。



報告会 8月28日(水)

三浦市役所にて



市長、市議会都市民生委員長、教育長、青少年姉妹都市国際交流実行委員会、派遣生の保護者へ、渡航中の活動について報告をしました。

研究課題のほか、印象深い出来事や、これからの学校生活等における新たな想いなどを語りました。

報告会 8月29日(木)

三浦ロータリークラブにて

例会に出席の会員の方々へ、渡航中の活動について報告をしました。

派遣団を代表し上郷さん、松井さんが研究課題のほか、印象深い出来事や、これからの学校生活等における新たな想いを報告し、引率の高橋先生から派遣事業の成果等報告をしました。



展示 11月17日(日)

三浦市民まつりにて



ブースを出展し、活動日誌や研究課題等を展示し、派遣目的や活動概要を報告し、未来の派遣生となる小・中学生へ事業へ興味や関心、市民の皆さんの理解を得る機会としました。

日本文化について

楠 和果奈

ゲームや漫画について

日本のゲームは多く売られていました。特にポケモンやマリオブラザーズはシリーズ物で売られていました。家族にきいてみたところ、DSは知らないが、Switchの知名度はある程度ありそうです。またポケモンはよく知られていて特に小学生の子どもに人気だそうです。

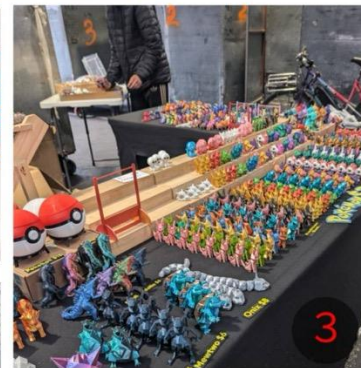
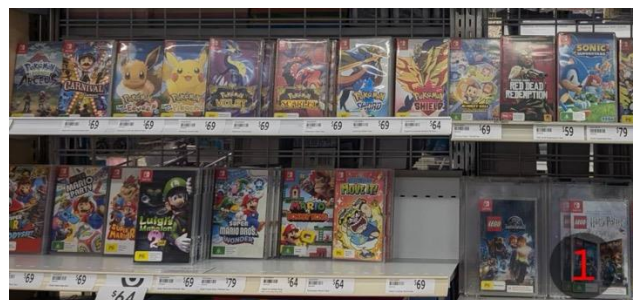
また漫画については、書店に多く置かれていました。ラインナップは豊富で、日本で有名な作品ならほぼありました。さらに学校の図書館にとある漫画が全巻置いてあり知名度の高さにも頷けます。

和食について

寿司はとても人気でしたが、それ以外の和食の知名度はあまり高くないように見受けられました。ただ家族は味噌汁やおにぎりを知っていたことから知る機会が全く無いということはなさそうです。なのでぜひもっと知ってもらえたらいいなとおもいます。

まとめ

和食の知名度の低さは意外でしたが、全体を通してみれば私の予想よりずっと日本文化や、日本の技術の浸透度は高かったです。トヨタや本田の自動車や支店などは街を歩いていたらほら見つけることができましたし、ポケモンの知名度は予想以上でした。今後は今の日本の良いイメージを残しつつ、さらに和食や着物などの古くからの文化も親しまれるようになればいいと思います。



- 1、ゲーム
- 2、漫画（書店）
- 3、市場にて①
- 4、市場にて②

食文化

2年 稲邑 優侑子

私はウォーキング・グループに行き、食文化について調べてきました。日本では違うメニューがいっぱいありました。

スタックタイム

ウォーキング・グループは日本と同じで朝・昼・夜でごはんを食べます。しかし、学校のある日は学校に「スタックタイム」があります。スタックタイムでは自分から持ってきたおかしを食べることが出来ます。約30分と長くて次の授業に準拠できるルールだと思いました。



「スタックタイム」
みんな自由に食べる！

主食

日本の主食は米ですが、ウォーキング・グループの主食はパンでした。でも、米がでる家もある。なのでその家によって違うかもしれません。パンの他にもじゃがいもやいもがでることもあります。おいしかったです！

食バカ

向こうではフォーク・ナイフ・スプーンで食べました。おはははホストファミリーが用意してくれていることもありました。日本で毎日使っているわけではなかったから少しは新鮮な感じがして上手く使えるようになりました！



味・その他

日本より味がうすい感じがする、甘い感じがする、辛い感じがする。その味は日本と同じような味付けでした。ハンバーガーなども日本と同じでおいしかったです！
おははは私のホストファミリーの家にはキッチンがきれいでした。ごはんはみんな席についていなくても食べたりしていました。日本はみんなそろって「いただきます」をして食べたりします。向こうでは自分のぶんを出したらすぐに食べてました。その文化の違いは、思いました。

研究課題

松井 陽真莉

【市民生活】オーストラリアの生活の仕方について

オーストラリアの生活の仕方と違い

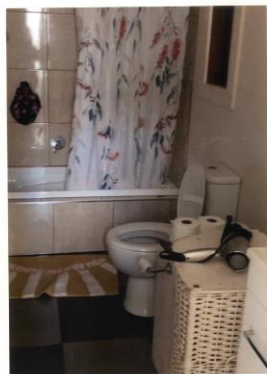
holiday Saturday

8:45 おきた	→	布団からでれなかった
9:00 着替えた	→	とても寒かった
9:10 朝ごはん	→	オムレツとオレンジを食べた
9:30 家を出る	→	I'm going!
10:00 ホストの子の 習い事	→	柔道
11:00 ラグビーを見た	→	オーストラリアではラグビーが人気??
12:00 昼ごはん	→	ポテトを買って食べた
12:30 タワーヒル	→	初めてのエミューやコアラ、ワラビーを見た
14:00		
14:30 海	→	とても美しかったけど少し寒かった
15:30 牛	→	色んな柄の牛がいた
18:00 帰宅	→	I'm home
19:00 夜ごはん	→	パスタを作ってくれた
20:00 お風呂	→	シャワーだけで少し寒かった
20:30 ホストの子と あそび	→	トランプをして盛りあがった
21:00 就寝	→	Good night ★

holiday sunday

7:00 おきる	→	get up
8:00 家出る	→	I'm going!
10:30 Wangom	→	
11:15 Bay of Islands Coastal Park	→	遠くからの景色がとてもキレイだった
12:00 The Twelve Apostles Lookout	→	海が広くとても景色がキレイだった
12:30 十二使徒海上国立公園	→	海
12:45 昼ごはん	→	海見ながらサンドイッチ食べた
13:40 TIMBOON	→	ワッキーワームのアイスを食べた
15:30 牛のえさやり	→	牛が近すぎた
18:00 牛見た	→	その日に生まれた牛の赤ちゃんがとてもかわいかった
19:35 夜ごはん	→	ピザを食べに行ったらSmallにしたけど大きかった
20:40 帰宅	→	I'm home
22:30 就寝	→	Good night

日本では、トイレとお風呂が別で個室になっていますが、オーストラリアでは、トイレとお風呂が同じ部屋になっていました。オーストラリアは水不足のためお湯はためずにシャワーで過ごしていた。



日本では、冬になるとストーブや暖房を使いますがオーストラリアではどの家庭も暖炉を使っていて、巻きとマッチを用意して1から火を起しているのが見れました。



メリット

- ・洗う物の手間がはぶける
- ・時短

デメリット

- ・食洗機対応の食器をそろえないといけない
- ・汚れが本当に落ちてくるのか

オーストラリアの人は食事が終わったら食洗機を使っている家庭が多かった。食洗機に入れるだけなのでとてもかんたんでした。



school day

7:00 おきる
8:30 学校到着
9:00 学校開始
9:10
5) 1時間目
9:58
9:58
5) 2時間目
10:46
10:46
5) 1st lunch
11:21
11:21
5) 3時間目
12:09
12:09
5) 4時間目
12:56
12:56
5) 2nd lunch
13:49
13:49
5) 5時間目
14:37
14:37
5) 6時間目
15:25
15:25 学校終了



オーストラリアの美容について

★人気のコスメブランド★

・ MCoBeauty

いろんなスーパーなどにも売っていて、とてもお手軽な値段で、基本40ドル（約4000円）以内で買えるものが多く、ウオーナンプルの学生からとても人気のコスメブランドでした。



とくにこのチューブタイプのリップが学生にとても人気でした！

学生美容事情

ブラウワーカレッジは基本ウオーナンプル市の中でも校則がゆるい方なので学生は大半の人がピアスを開けていました。なかでも鼻のピアスは人気で女性の学生の5割はしていたんじゃないかなと思いました。先生方のなかにも鼻ピアスをしている人がちらほらいました。メイクに関しては、4割くらいの人しかしていないんじゃないかなーと思いましたメイクをしていると言っても、ファンデーションにアイブロウだけなど比較的日本と比べるとナチュラルだなと思いました。中にはマツエクやまつパをしている人がいましたが、1割くらいでした。ご



バスルーム

オーストラリアではやはり基本シャワーのみで、日本ではシャンプー、コンディショはほぼポンプ式タイプですが、オーストラリアではキャップ式でした。オーストラリアでは基本朝シャワーに入る人が多いなと思いました。



オーストラリア



日本



オーストラリアのバスルームは日本とは違って自分で温度調節するタイプで、シャワーは大体固定されています。

食事の栄養バランス



野菜が思った以上に多く、しっかりと栄養バランス取れているご飯とてもおいしかったです！！

研究課題 嘉山 煌星 【学生生活】校則について

ブラウワーカレッジにある校則について

- ・ピアス ok
- ・教室にあるコンセントの使用も ok
教室の机は「コ」の字型に並べられており、
席の場所は自由
- ・教室は全て移動教室
- ・スマホ OK
- ・移動時間になるとブザーがなり、それを合図に移動
- ・朝のホームルームの前には音楽が鳴り何個かのクラスが一つの部屋で集まりホームルームを行う
- ・休憩時間は2時間目と3時間目の間に一回4時間目と
5時間目の間に一回あり、食事をしたり、グラウンドでバスケをしたり基本自由
- ・基本学校生活は制服

などの校則があることがわかりました。

自分が通っている学校（中学校）と比べてみると

学校生活における自由度がすごく高いと思いました。

授業をするときの席も、休憩時間の過ごし方も、とても自由だなと感じました。



お菓子

2年 上郷 唯花

1. 種類の違い

日本のお菓子とオーストラリアのお菓子は種類の違いはあまりないです。スナックやチョコレート、ワニなどがあり、日本と外わりはなけれど、日本のように、お菓子と小さいなお菓子はあまりなかったです。

あと日本と比べて、ホテトチップスの種類が多いように感じました。塩味だけでなく種類が多く、すべて合わせてもすごく多かったです。



この写真は1部ですが、実際はもっと多くて、袋も大きかったです。

2. いつ食べるのか

グラウワーカレッジには、2時間目と3時間目の間に「1st ブランチタイム」というのがあって、その時にスナックを食べている人が多いです。

右の写真はチョコレート等です。同じメーカーでも様々な種類がありました。



3. 日本のお菓子は、どう思われているのか

ホストファミリーに日本のお菓子をお供した時、すごく喜んでくれたけど、特に、ハイチューとチョコボール、ポッキーが人気でした。オーストラリアにも同じようなお菓子があるので、食べ慣れているものもあって、好きな人が多いです。

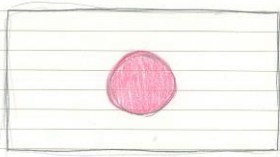
三浦とワーナブルの景観

○ 調べようと思った理由

三浦の街、霧面や自然など、共通点があると気づいた。北道で「行前」の調べが、驚くことと多分、たず。

○ 調査方法

- ・ 自分、目71 見る
- ・ 現地の人が15 分



JAPAN



AUSTRALIA

③ 金体的平衡、运动

7. 100

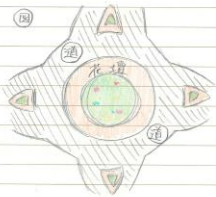
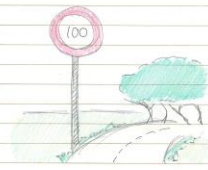
- ・酪農場がとて多くない、緑が多い。
- ↳ 全体の広域中、郊外に自然の手がけが残り多い。感心。
場所と開拓時期が、土地が肥沃という点で減少はない。

※ 冬はカサと火傷を防ぐために
カサを切ってしまおうらしい。



道路

- [illegible]



○ 街、界、氣、構造

① 街、男国为

三浦 → 住宅街や建物が相隣りして、717 3949 3949
 いる感。

外出している人が多、時間帯により賑わっている。
イキ-ジ。

78-79-80 → 家と家、間隔が30mくらい空いて余裕が
取れる。

外資の力は基本的に国から個人に三割が
歩いている。然るに三割と取らせると然るに人は
優に明かすからと思つた。

② 建明，補送

三潮 → 不器 or 2:71-67 建つておらずの所多く,

二階建てのマンションの多い建物は、元々建てられいる。

「 $1-2-3$ 」→「 1 」の逆 α $1-2-3$ → 建物の水質の改善、田舎の建物の
ほぼ全て1階建ての平屋。12/10 家の庭と煙突が
付いているのが基本的。

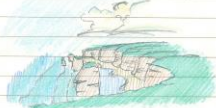
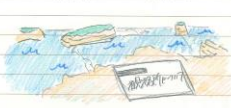
公園で遊ぶ子供が三浦の比ヶ浜の方が多いと思えた。
各家の庭に遊具が設置されていたらいいなと思った。

觀光名所

- ・観光名所は海が多いが、どの場所も設備が自然に整っている。研を介していたりして全面をバッチリたてた。

4 利根川は海を見るにたゞる場所や、その場所に
717の説明、小池のおうを構えているから、観光名所は

$\therefore$ 上から見た時に見える階段は張りの面を渡って下りると階段で下る
 階段の数がある。



○感想

た、た 2週間 という長い方と 短い旅 た、た 2週間 ほど
思えたりするのを 覚えておく べきだ と思う。

自分も初めてのことではあったが、不安は無い。日々、夜9時
日本との違いが身に染みてくる。毎日1個1個縄村に
驚きはあふたから、個性が見えづる77。染みかた。

この経験を通じて、世界のいろいろな場所へ行く、それがいいと思うようになった。

番外編 メルボルンの景観!!

○ 建物

- ・「 $7A-7T-7-1$ 」は「 $7A-7T$ 」高1建築物に足る建物の1つ。
(日本工業規格「 $7A-7T$ 」の規格に準拠)
・「 $7A$ 」建築物の敷地は「 $7A-7T-7-1$ 」と建築物の「 $7T$ 」
線が同じである建築物の敷地、敷地は「 $7A-7T-7-1$ 」は
自然の地形に「 $7A-7T-7-1$ 」の図案は「 $7A-7T-7-1$ 」の敷地は「 $7A-7T-7-1$ 」

○ 日本と違うところ

- ・ 札幌の17日 建物への落書きを 警察に通報された
落書きが 札幌市に 入った 警察に 報告された。
→ その場所を 自由な 落書き OK。場所を 観光客に 見
て ほしい。



研究課題 長島 瑠美 【学校生活】 学生について

三浦市青少年派遣団 報告書

長島 瑠美

ウォーナンブールの学生の1日 A day of students in Warrnambool.	よく使われるアプリ Application used often
9:00.am school start	1.Instagram 
Period1	SNSのなかでも拡散性が低く、写真や動画などに特化した視覚的に楽しめるコンテンツ。ストーリーやタグ付け機能などがあり、友人や知人など、同じものに興味をもつ人とのコミュニケーションにも使える。
Period2	
休み時間(30分ほど)	2.Snapchat 
Period3	Instagramのように、友だちとチャットができ、かつ写真や動画も投稿できる。唯一違う点は、コメントがなく、チャットも投稿もすぐに消えるので、拡散性がより低く、日常的に使いやすいところだ。
Period4	
休み時間(50分ほど)	3.TikTok 
Period5	短い動画を投稿またはテンポ良く閲覧することができるコンテンツ。最新のトレンドなどを把握できる一方で拡散力が高く様々な危険性もある。
Period6	
3:30.p.m. Home time/After school	
after school(放課後) ・スポーツ ・習い事(ダンス・スポーツなど) ・勉強/宿題 ・散歩 ・アルバイト ・家族との団らん	
△注意 ・one period =45分ほど	(その他にSpotify  はほとんどの人が使用しており、Australria

・その時々によって細かな時間 が変わります。(分刻み)そ のためあくまで目安です。	Indie Mixも人気らしい)
---	------------------

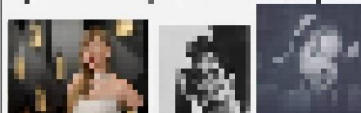
～何を見て育ってきたの？～ What kind of program did you watch when you grew up?	～何の食べ物が人気？～ What kind of food is it most popular?
・カートゥーン Peppa Pig  In the Night Garden 	VEGEMITE  caramello koala  Tim Tam

PLAY SCHOOL	
	Shapes
DORA the EXPLORER	
	SOUR PATCH KIDS
The wiggles(子供向け番組)	
	RED ROCK DELI
	

POPULAR MUSIC AMONG TEENAGERS

International

Taylor Swift / Harry Styles / Lana del ray



(+オリヴィア・ロドリゴ/ビリー・アイリッシュ/チャペル・ローン)

Australian

Dom Dilla / Skeggs / Ocean Alley



Oasis / John butler /



Dom Dollaはオーストラリアのパーティーミュージックで欠かせないアーティストらしい。また、ここで生活している中でもテイラー好きには多く出会ったため確かに人気ではあると思うが、音楽は人によって好みが大きく分かれるものであるため、これが正解でもなければ絶対でもない。

EVENTイベント

地域

- ・DEBUTANTE BALL (デビュタント ポール)
- ・音楽フェスティバル
- ・競馬カーニバル
- ・スポーツイベント
- ・慈善団体の募金
(・マーケット)

学校

- ・私服を着てBBQ

発見と考察・感想

・毎週土曜日に開かれているマーケットは三浦でもやるべきだと思った。理由としては、三浦市もウオーナンプールと同じぐらい果実や野菜などを持っているはずだし、最近無人販売をよく見るから。また良い交流の機会になると思うし、食料廃棄物が少しかもしれないが、改善できると思ったため。

・言語の壁はもちろんあった。(言われてもわからない。伝わってるかわからない。)だが同時に、伝えようということ、言葉にすることの大切さを学べた。また、英語をもっと勉強したいと思うようになった。

・分別がリサイクルできるか否か、また生ゴミだけしかないと驚いた。街がきれいな理由は、確かにゴミ箱の多さ分別の簡単さも関わっていると思うが、車移動が多いことも関係しているのではないだろうか。

・土地が多いからか二車線道路がほとんどだった。また信号の表記にも違いがあった。

・建築物は曲線を使っていたり個性的なものが多かった。そのため、散歩だけでもとても楽しかった。

・日差しが日本より強い気がした。また、日光を好む人が多かった。

・授業形態(席や机の形も)が日本より自由だと感じた。(レクみたいだったり、教室外でやったり、グループでプレゼンしたり、個人の際は音楽を聞いていたり、パソコンやモニターの普及が進んでいた)

・多くの人がいろんな文化や考えを尊重できているようにみえた。また活動的にみえた。

・生徒たちは基本的に食べているか、話しており、コミュニケーションを大切にしていた。(スマホもみていた)

On the journey





令和6年度三浦市青少年派遣団活動報告書

令和7年3月発行

編集・発行 三浦市青少年姉妹都市国際交流実行委員会
三浦市教育委員会

事務局 神奈川県三浦市城山町1-1

三浦市教育委員会 教育部 青少年教育課

☎046-882-1111 内線418

✉kyoui0601@city.miura.kanagawa.jp